

5. 各部材の継手の工作としては、別図によるごとく、継手の型板を右勝手、左勝手それぞれ2通り製作し、部材の表裏より墨付を行い、鋸挽によって仕口の工作を行い、継手接合は「クサビ」又は「こん桂」を用いて緊結する。

成 果

今回の研究及び試作によって、次のような効果をもたらした。

1. 従来のトラス構法と同一の強度のものを得た。
2. 構法を簡易化することにより、構法および仕口

の複雑化を取除いた。

3. 工費の節減と、作業性の軽減を図り能率化した。
4. 作業工程、構法の難易等これらの問題点を解決した。
5. 継手の簡易化により、さらに作業性を円滑にして、仕事の手間が省けた。

従来のトラス構法について問題点を検討し研究試作した結果、このような好条件の結果を得たので、これを業界に移し、これを今後普及推進して行く。

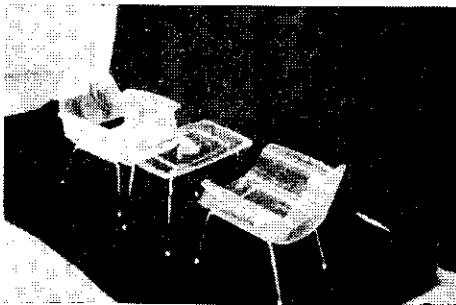
アクリル樹脂板成型家具の設計試作

研究員 鮫 島 正 登 美

はじめに

住宅が、鉄筋、ブロック、プレハブ等種々雑多な建築方法が利用され、室内も今後の傾向として、座るための畳の間は一部に留まり、ほとんどが洋室化と言われる。これら住宅の変化に伴い、使用材料も、合板、合成木材、アルミ、プラスチック、グラスファイバー、スチール、ガラス等、色々な新材料が開発されて、室内の内部構造もいちじるしい変貌をきたしたと言われる。これらの新材料は家具産業の中にも取り入れられてきた。鹿県においても同様あるていどの利用はなされているが、まだまだ使っていないとは言えない。

今回はこれら新材料の中から、現在の家具業者の技術と施設で容易に扱える最も効果的な材料としてのアクリル樹脂板を取り上げ業者が試作でき得る物を設計試作した。



●アクリル樹脂板の性質とその利用

他の樹脂板より透明度がよく、熱に強い硬質であるので一度成型した物は容易に変型しない。

これらの点から、ジェット機風防、自動車後面窓、ドア照明看板、照明具、ボタン等と輸送機関係から建築、工業機械、照明、看板、雑貨関係にいたるまでその用途は広範囲にわたっている。

●このアクリル樹脂板の利点を生かして、前記新材料の利用開発を目的として、今回は簡易談話室、またはテラス等で使用できる成型椅子を試みた。

すでに県外の量産体制を取り入れている椅子メーカーでは、アクリル樹脂板を取り入れた物を製作発表しているが、我が鹿県の業者で製品化した場合、材料の高価な点や、成型設備のない現状だが、はたして販売できる製品に成り得るのか、先ずこれら成型技術を知るために上写真の物を図面化し試作した。

成 果

成型設備がないのでかなりコスト高に成ったが、試験場展に試作品を出品し、その成果を確かめた県内業者でも立派な成型技術を持っていることが立証されたので、今後は需要対象、利用範囲、用途、耐久性、形態、機能、加工等、アクリル樹脂板の価格を考慮に入れた利用研究が必要である。